

※申請者名：宮崎県牛肉輸出コンソーシアム、品目：牛肉

2. 輸出事業計画の取組内容

【取組（生産）】

- C S（キャトルステーション）、C B S（キャトルブリーディングステーション）、コントラクターの整備支援や利活用の推進により生産基盤を強化する。
- アパート牛舎整備や承継事業の活用により規模拡大や新規参入を推進する。
- 新規就農者のトレーニングの場として活用、雇用して賃金をもらいながら研修することで、スムーズな新規就農を促進、雇用型の研修体制の構築による法人就農、新規就農の拡大を図る。
- 繁殖管理システムや分娩監視システム等の I C T 機器を活用した分娩間隔短縮、事故防止を図る。
- 増体能力に加え、不飽和脂肪酸（M U F A）割合やおいしさに関する指標を取り入れた種雄牛を造成する。
- 鼻環を牽引しない牛の取扱い等の動物福祉対応としては、繋留所内の床面に滑り止めマットを設置し、繋留中の牛の足の負担軽減に努めた。ノッキングベンまでの引き込みについても牛の動きに配慮した取扱いを実施する。令和3・4年度は輸出向け肉用牛取扱改善推進委員会（JRA事業）に参加し簡易頭絡作成及び取扱方法のマニュアル作成に協力した。令和5年度は自社で簡易頭絡を作成し肥育農家への配布を実施。他社の輸出施設の視察を実施し動物福祉に配慮した牛の取扱いを継続的に実施する。
- 懸垂放血により血斑発生に対する取組みとしては、エアガンとカウパンチャーを併用してスタンピングを実施した。エアガンは農家毎、品種別で圧力調整を行いながら農家毎にデータ収集を行い血斑低減に努めている。対米輸出牛肉血斑低減フォローアップ事業推進委員会（JRA事業）に参加して生体輸送から繋留中の牛の心拍調査にも協力した。同委員会の有識者による現地技術指導によりナイフの入れ方や腕頭動脈の切断位置などの改善に取り組んでいる。都農工場ではドライランディングゾーンの回転速度を上げ放血までの時間短縮を図り、高崎工場ではエアガンの性能を維持し的確なノッキングを行うために毎週エアガンの分解メンテナンスを継続的に実施する。

【取組（販売）】

- 宮崎牛の特徴や価値を訴求するための広告資材作成・提供やバイヤーの産地招聘等を通じたブランド価値の理解醸成。
- EC販売に活用する販促ツール（プロモーション動画等）の作成。
- 輸出事業者による現地でのフェアの開催や情報発信のための牛肉サンプル提供。
- 現地情報誌掲載やSNSを活用した商品広告・プロモーション。
- 商談会への出展（米国、EU）。
- 現地の日本食レストランをターゲットにしたプロモーション（台湾）。
- 部位毎のカットや調理方法の提案による多様な部位の販売（米国、EU）。

※申請者名：宮崎県牛肉輸出コンソーシアム、品目：牛肉

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

牛肉	現状 (令和 5 年)	目標 (令和 8 年)
輸出額 (千円)	3,793,296	4,798,527
輸出先国	香港、台湾、米国、 E U、その他	香港、台湾、米国、 E U、その他